

(案)『10年後 北九州は変わる』

夢をもてないほど悲しいことはありません。夢に向かって一歩でも踏み出せば、それは目標に変わります。

個々の目標を明確にし、ひたむきに長時間明るく努力出来る、そんな若者になってほしいと心から願う。

《Next 10 Years》

家庭 子どもは親の後姿を見て育つと言われていています。親自身がお手本となるべく努力しましょう。

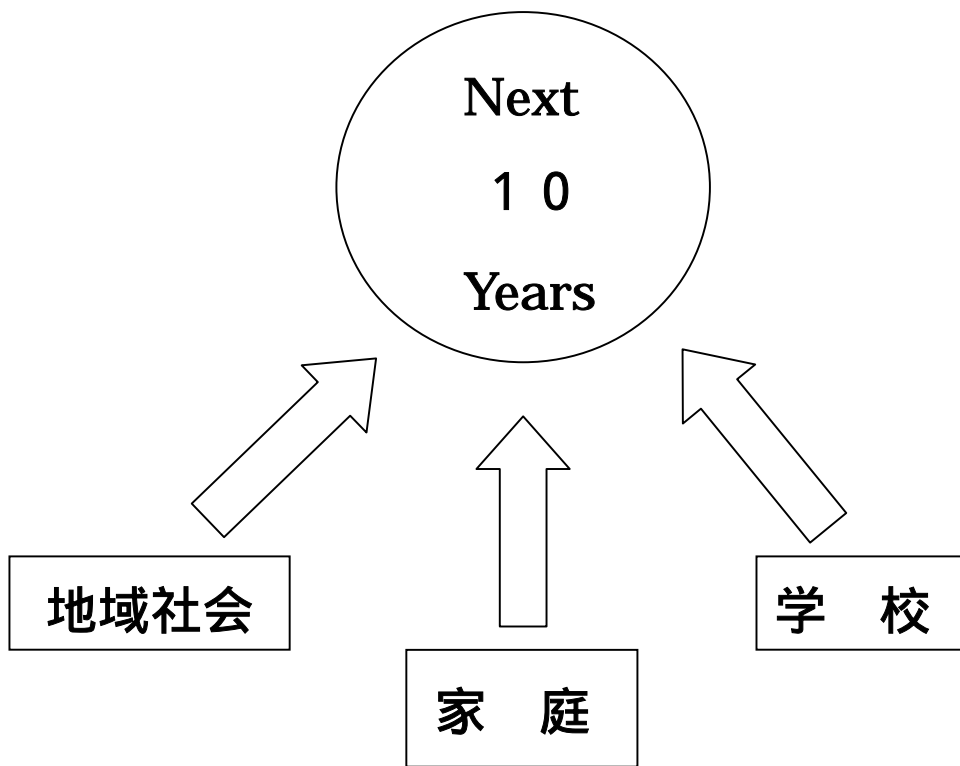
- 1、子育ての基本は家庭である。早寝、早起き、朝ごはん。
- 2、愛情豊かに、親としての責任をまっとうする。
- 3、明るく元気に育てる。

学校 教育関係者すべてが誇りと責任をもって本気で教育に携わる。

- 1、学力、体力、徳育の向上に努める。
- 2、愛情豊かに子どもたちに接する。けして分け隔てはしない。
- 3、今一步の努力を求む。

地域 地域の宝物である子どもたちの安心、安全な環境作りに努める。

- 1、子ども会活動を通して、ふれあい作り。
- 2、スポーツを通して交流を深める。
- 3、他人の子どもを叱れる大人になれるか。



子どもの未来をひらく教育改革会議

平成20年9月1日

『仮説 私のラベリング論』

彌登 章

どんなにバランス感覚が優れている人でも、物の見方、考え方に偏り、偏見はあります。特に食べ物に、好き嫌いの多い人ほど、物の見方に偏りが多いのではないのでしょうか？

1、子供たちに、食の好き嫌いをなくす努力を・・・

肉がダメ、野菜がダメ、魚がダメ、これでは成長してバランス感覚の良い大人にはなれません。勿論、自分自身は常に正しいと思っている人が多いようですが、自分自身では考え方のバランスが偏っているとは解からないからです。

〔例〕

良く聞く話ですが、短所を直すより、長所を伸ばす方が子どもを育てるには良いのだという意見もありますが、一部ではうまくいっても多くの子どもたちに当てはまる物ではないと考えます。

食で考えますと好きな物だけ食べて、嫌いなものは食べなくても良いと言う事にも繋がるのではないのでしょうか。又、楽しい事はするが、つらい事、いやな事はしなくても良いのでしょうか。つらい事から逃避せず、努力した事で真の喜びや楽しみを得る事が出来るのではないのでしょうか。

母親、父親に好き嫌いが多いと、その家庭で生活する子どもたちも偏った食事になるのです。自分が食べるのが嫌なので子どもたちにも「無理に食べなくても良い」等と言ってしまうのです。

家庭教育はまず家族での食事から、と思います。

2、現代の社会生活の中で

偏食の多い人は、何事かにぶつかるとその判断も、身の処し方も偏ります。団体生活の中でも理解してもらえず苦勞をします。たとえば、何かのテーマで打ち合わせを

していると考えて下さい。自分の嫌な事は先ず出来ないのです（善悪は別です）。嫌な物は食べないのと同じで、嫌な事は嫌となってしまうのです。嫌いな食物が自分の前（テーブルの上）にある事が許せないのです。これが『いじめ』にも繋がっていくのです。嫌な人、嫌な友人、嫌な先生、とレッテルを貼り、自分の前から排除してしまう行動に出るのです。すべての『いじめ』がそうだとは言えませんが、要因のひとつでもあるのです。

3、和食派、洋食派？

今、地球的グローバル化が言われております。私は、日本食はほとんど好き嫌いが無いので、考え方のバランスが良いと思っていましたが・・・。

東南アジアを旅行した折、現地の人達が行くレストランでの食事には苦勞しました。と、言う事は私は日本国内でのバランスが良いだけで、国際派ではないと言う事が解かりました。

自分自身で『ラベリング』

一緒に行った友人は、すべて完食、立派の一言。その方は世界中に友人がいます。今の若者は『海外で仕事がしたい』と考えている人も少なくなっているそうです。

4、共同生活

過去、私は『青年の船』の役員として3回乗船いたしました。

海外からの若者約100人、日本国内から約300人、2週間ほどの船旅ですが、同じ時間帯を共有し、同じメニューの食事を共にすると、不思議な事に人種的な国境はなくなります。しかし、宗教的な事は無理です。人種間、宗教的戦争は第三者の介入では問題は解決しません。しかし、約2週間の旅の終わりは、皆抱き合い涙々の別れでした。

イギリス、アメリカを始め、海外の名門校は寮生活が大半です。戦前の日本でもそうだったと聞いています。一生の友は、寝起きを共にし、同じ物を食する事で生まれてくるのです。3,4年寮生活をしてみると好き嫌いが少なくなります。

5、食事を共にする

空腹になると人は機嫌が悪くなると言われますが、私は本当だと思います。大切な話をする時は空腹時ではない時の方が良い結果が出るのではないのでしょうか。私は若い社員を、出来るだけ食事をしながら面談するように心がけています。スケジュールを決める時、好きな物、嫌いな物を聞いて食事の会場を決めます。「嫌いな物はありません」と言われるとホッとします。

私の子どもに結婚相手に付いてひとつだけ注文を出したのは、好き嫌い無く何でも食べれる人なら反対はしないと言う事でした。ある日次男が彼女を紹介する時の第一声が、「お父さん、彼女は好き嫌い無く何でも食べれます。」でした。長女の旦那さんも、「美味しい、美味しい。」と何でも食べております。幸せな家庭作りには偏食はいけません。

6、偏食をなおす

偏食はなおります。私は医者ではありませんが、食生活は年齢によって変化して行きます。若い時はお肉、今は魚の方が良いとか、野菜も良く摂るようになります。誰かに言われた訳でもないのに、食の好み、嗜好は変化するのです。であれば、自分で偏食をなおそうとすればなおります。ごまかして食べさせられるのではなく、自分の意思で食する事で、体も、考え方もバランスが良くなります。

訳の解からない事を学校に言ってくる親は、たぶん好き嫌いの多い人ではないのでしょうか？ 是非、偏食をなおしてほしいものです。

7、最後に

子ども達が今置かれている環境によって好き嫌いが、偏食へと変わります。少年犯罪や家庭内暴力も食事が影響しているのではないのでしょうか？

教育者の方々には特に好き嫌い無く食する方になって頂ければ、子供たちを見る眼も変わってくると思います。

是非、食事を通して自分自身を見つめなおしてみてください。